



武南高等学校進路通信 第4号

進路指導部

模擬試験は「復習」までがセット！どう活用するかがPOINT

「学力到達度を知る」 今は判定を気にしすぎない。安易に志望を下げない。

先日、高3対象の河合共通テスト模試が外部で実施されました。来週には校内で高3対象のベネッセ共通テスト模試が実施されます。模擬試験を受験する目的の1つは、志望校の合格可能性を知ることです。模試ではAやB判定でありながら不合格になる人もいれば、その逆の人もいます。合格可能性は気にしすぎないことが大切です。特に現役生は試験当日まで学力が伸びます。今回の模試でE判定だからといって、あきらめてしまうのはもったいないです。入試の当日に合格最低点以上がとれば良いのです。この合格最低点は各大学がHPや大学案内、赤本で発表している場合が多いです。大学にもよりますが、その得点率は6割前後が多いようです。誰もができる基礎・基本問題を確実に得点し、皆ができない難問は深追いせず、合否を決める問題に全力で取り掛かることです。

ちなみに、過去には2月の私立国立入試では実力を発揮しきれなかった生徒が、3月の後期試験で合格を勝ち取ったこともあります。卒業式前後も、その生徒達は放課後の教室で学び続けていたので、3月の後期試験では十分な準備ができていました。後期試験を受験したいずれの生徒も出願しておいて良かったと言っていました。

「弱点を知る」 すぐに自己採点を行い、弱点を補強、学習計画を再検討しましょう。

模試の後はずぐに自己採点を行い、解説を読んでください。入試で必要とされるポイントがたくさんあるはずですが、また、返却された答案をみて、客観的に、どの分野が弱点で、その克服のため何をすべきかをきちんと把握することが大切です。模試を受けるたびに弱点を補強することこそ、合格への最短ルートです。(復習・弱点補強は基礎・基本ができていない生徒ほど多く時間がかかり、かなり苦勞する取り組みとなります。多くの生徒にとって、基礎基本の完成が夏期休暇中までのPOINTでもあります。)

「年内に推薦入試等を受験する生徒も要注意」

近年、推薦・総合型などの入試において基礎学力を問われる場面が増えています。この点から見ても、模擬試験で弱点を確認し、補強することは大切です。何事も全力で取り組みましょう。

どの入試方式でも、進学先を決めることがゴールではなく、「次のステージで何をするか」「自分を高められる場所はどこか」を常に考えましょう！！その「覚悟」が大切です！